

自然は、気持ちのホスピタル

NPO法人 上山高原エコミュージアム

上山高原は、兵庫県西北部鳥取県境に隣接し、「氷ノ山後山那岐山国定公園」に指定され、但馬山岳県立自然公園のエリア内にも位置している標高750mから900mの高原である。高原及び周辺地域は、扇ノ山等国有林のブナ林に代表されるような自然性の高い原生的自然と、ススキ草原のような自然性の高い二次的自然と、希少で多様な生物を育む貴重な自然を形成している。昭和30年代には、但馬牛の放牧地で、冬期の乾燥飼料の生産にも活用されていたため、広い面積のススキ草原が維持され、イヌワシや草原性の昆虫など多様な動物が生息の基盤として利用し、開放感のある良好な景観を有していた。

しかし、ブナ等が伐採され人工林に変わり、高原部のススキ草原も面積が減少し、全体として生物多様性が大きく低下しようとしている。



自然保護活動

ススキ草原

わたしたち法人は、この上山高原と麓の集落などをまるごと生きた博物館ととらえ、地域の有形、無形の資源を活かすつ保・再生する「上山高原エコミュージアム」として取組を進めている。貴重で豊かな自然を守り育むとともに、自然と共生してきた地域の暮らしに息づく知恵を学び活かし、広く情報発信することで地域内外の交流を図り、かけがえのない自然を次代に継承し、地域の活性化にもつなげる活動をしている。

現在、以前の高原の再生を目指し、高原を森林ゾーン、草原ゾーンに分類して、双方のバランスを図りながら上山高原の特徴ある自然再生活動を行っている。

<森林ゾーン>・・・落葉紅葉樹林化

現存する広葉樹林の保全と、杉、檜などの人工林を間伐しブナ、ミズナラなどを植樹する。

<草原ゾーン>・・・すすきの草原化

再生を図ってきた「ススキ草原」の維持、密生している笹、灌木などの刈り取りでの面積拡大を図る。

<私たちの活動>

1 自然再生活動

以前の上山高原は、大部分がススキの草原で、樹木はミズナラ、ブナなどの原生林で多様な生態系を育んできた。その30年程度前の上山高原の復元を目指し、自然再生・保全活動を行う。

2 体験プログラムの開催

- ①原生林、山野層などの観察、霧ヶ滝、シワガラの滝に代表される多くの滝資源、地域の歴史を学ぶプログラムを実施し、地域の良さを



イヌワシ〈左〉
ツキノワグマ〈中〉
オオルリ〈右〉

再認識する活動を行う。

- ②「ふるさと館」を中心に、木工、草木染め、わら細工、また調理体験などの体験活動を行い、伝承活動、ふれあいの拠点敵活動を展開する。
- 3 地域の活性化
 - ①地域資源を活用して地域外の方々も招聘へし、地域の活性化に繋げていく。
 - ②多く子どもたちが、自然資産を活用して、体験学習に活用できるように遊歩道など整備する。



上山高原「ふるさと館」

いっしょに活動しませんか！

「上山高原エコミュージアム」は地域の住民を中心として、様々な組織及び人が連携し運営しています。地域住民を主体とした運営組織「特定非営利活動法人 上山高原エコミュージアム」が中心となって自然の保全・復元活動や、登山、トレッキング、ハイキングなど自然観察等のプログラムを実施しています。一緒に活動していただける方(会員)を募集しています。皆様の積極的な加入をお待ちしています。

<会員ご入会の案内>

- 正会員 年会費2000円・・・総会の議決権を有し、会員としての活動。イベント等の参加費用無料の優遇。
- 賛助会員 1口3000円・・・活動できない方が、活動趣旨に賛同。イベント情報の提供。
- エコクラブ会員 1000円・・・イベント情報を提供する。



霧ヶ滝トレッキング

■連絡先

代表者 代表理事 小畑和之
〒669-6953 兵庫県新温泉町石橋757-1

TEL : 0796-99-4600
FAX : 0796-99-4601

■ホームページ [http:// www.ueyamakogen-eco.net](http://www.ueyamakogen-eco.net)

■E-Mail : Ueyama-eco@yumenet.tv

■主な活動地名

上山高原、畑ヶ平高原、扇ノ山周辺

子どもたちと一緒に生き物を追いかけてよう。

NPO法人 コウノトリ市民研究所



コウノトリ〈左〉
ヒメシロアサザ〈中〉
シマゲンゴロウ〈右〉



田んぼの学校：川の生き物調査

兵庫県豊岡市で行われているコウノトリ野生復帰プロジェクト。失われた野生を取り戻すための壮大な計画は、実は、人の生活そのものを見なおす環境ルネッサンスでもあります。コウノトリというシンボルを掲げ、市民レベルで出来る自然観察を無理なく楽しくやろうというのが、この研究所の目的です。豊岡盆地の継続的な生き物調査を通して、めざすべき未来の姿が見えてくるのではないのでしょうか。コウノトリ市民研究所の主役は子どもたちです。私たちは子どもたちと一緒に未来を作っていこうと思っています。こう宣言してはや12年が経ちます。

私たちの活動の柱の一つに生き物調査があります。市民参加型で行うタンポポ調査、ミズワラビ調査、メダカ調査、ホタル調査、水路・河川・湿地の生き物調査、タガメ・ゲンゴロウ大搜索、セミの抜け殻調査、赤とんぼ調査、野鳥調査、カエ

ル調査、ひのそ島探検隊……。そして主任研究員が各自で行う動植物調査。

山で、川で、水路で、ため池で、田んぼで、…。いろんなことを調べてきました。その過程でコウノトリをはじめとする多種多様な生きものたちを育むことができる豊岡盆地の自然の底力が見えて



田んぼの学校：私が捕まえる!!



田んぼの学校：今年も田んぼは大にぎわい

きました。また、豊岡盆地からすでに失われてしまったものが、補わないといけないものが見えてきました。私たちは、その成果を各種の「生き物地図」として発表し、いろいろな場で伝えてきています。

私たちの活動の柱のもう一つに田んぼの学校があります。

- ◆ピオトープづくり
- ◆生き物調査
- ◆ネイチャークラフト
- ◆自然を食べる会
- ◆里山林整備
- ◆・・・

私たちは、山も川も田んぼも、こんなのみんなを含めて田んぼの学校と呼んでいます。

田んぼの学校は、午前の活動とお昼の大鍋がセットになっています。大鍋は地産地消です。野菜も肉も魚も、そして燃料の薪も地元のもので



田んぼの学校：やっぱり最後は大鍋だ



田んぼの学校：素敵なリースができました

す。もちろん有害獣駆除されたシカやイノシシもおいしくいただけます。「但馬はおいしい。但馬に生まれてよかった。」と子ども達に思ってもらいたいです。

「子どもが野生に帰らなきゃ、コウノトリが野生に帰る訳がない。」と豊岡市に働きかけ、田んぼの学校が一つのモデルとなって「子どもの野生復帰事業」が始まりました。

私たちは、子どもの時からずっと網をもって虫を追いかけて、双眼鏡で鳥をながめたりしてきています。田んぼの学校では、私たちが一番熱心に網を振るっていたりします。

田んぼの学校は、どろんこのちびっ子たちで大にぎわいです。子どもたちを生き物好きにして、私たちが気兼ねなく生き物たちと遊べる豊岡になることを願っています。

■連絡先

代表者 上田尚志

〒668-0814 兵庫県豊岡市祥雲寺127番地
コウノトリ文化館内

■ホームページ <http://kounotori.org/>

■E-Mail : info@kounotori.org

TEL : 0796-23-7750

FAX : 0796-23-8005

■主な活動地名

兵庫県豊岡市

まずは「親しむ」ことから始めよう!

山東の自然に親しむ会

「山東の自然に親しむ会」は平成17年に活動を始めました。平成16年度に兵庫県立人と自然の博物館の事業「ひとはくキャラバン」を山東地区（旧山東町、現朝来市）で開催し、せっかく集結した人材や機会を生かしたいと考えたからです。

我々はまず平成17年秋に地区の文化祭に「ミニ水族館」として魚類を中心に多くの水生生物を水槽展示しました。来場者の方が非常に興味を示して頂きました。大人の方は昔を懐かしんだり、以前見られたが今は見ない魚の貴重な情報もいただきました。また子供たちは目を輝かせて食い入るように魚たちを見つめ、それを絵に描いてくれました。

この活動は以降5年間継続しており、毎年多くの方に見に来ていただいております。会員の作成したブログや新聞各社、市の広報誌などで活動がより広く知られるようになり、大阪・姫路・京都



オオサンショウウオ

など市外の都市部からも足を運んでいただくようになりました。そのほかにも、兵庫県立人と自然の博物館の連携団体として登録させていただき、川の生き物観察会や植物観察会も実施させていただいております。また、地域の学校に赴き、環境体験学習のお手伝いもさせていただいております。

山東地区は3つの主たる谷と川から成る、盆地の町です。古代より治水が行いやすかったと見えて、多くの遺跡や寺社仏閣がある古くから開けた町です。それゆえ植林や圃場整備が進んだ地域でもあります。それでもなお、身近にこれだけの豊かな自然があるということを地域の皆さまに知って頂きたい。特に子供たちにはそのすばらしさをよく知ってもらいたい。生きた教材を使ってダイレクトに自然を体感できるということは、非常に豊かで贅沢なことだと思います。これからも



モリアオガエル

豊かな自然と地域の方とをつなぐ役割を、また次の世代にこの素晴らしさを伝えていけるように活動を続けていきたいと思っています。



アカザ



アカマダラコガネ

私たちの町にはこんな生き物がいます!

- アナグマ●サシバ●ヤマセミ●カワセミ●シロマダラ
 - オオサンショウウオ●ヒダサンショウウオ●モリアオガエル
 - カジカガエル●アカザ●ナガレホトケドジョウ●ヤマメ●カジカ
 - ムカシトンボ●ムカシヤンマ●ホンサナエ●ハッチョウトンボ
 - ミヤマアカネ●クツワムシ●アカマダラコガネ●ウマノオバチ
 - キマダラルリツバメ●ウラナミアカシジミ●オオムラサキ
 - オオシモフリズメなど
- 豊かな自然をこれからも大切にしていき、次の世代に引き継いでいきたいと思っています。

■連絡先

代表者 波多野哲哉

〒669-5115 兵庫県朝来市山東町金浦201-4

■E-Mail : hatano-tetsuya@city.asago.hyogo.jp

TEL : 079-676-2975

■主な活動地名

兵庫県朝来市山東町

自然豊かな但馬を楽しむ

但馬野鳥の会

1981年に同好者が集って発足し今年で30年になる。但馬地方を中心に毎月探鳥会を開いて啓発につとめ、又月一回会報“I LOVE Bird”を発行し会員とコミュニケーションを取りまたは情報の収集を図っている。

毎年恒例の行事としては、1月円山川中下流域で環境省依頼のガンカモ科鳥類調査と冬鳥カウントをおこなっている。下流域では25~40種を確認している。内カモ類は10~14種、2~3500羽をカウントし、マガン、コハクチョウも近年継続して観察している。下流域豊岡盆地ではコウノトリ野生復帰事業が進められていて減農薬の環境重視型農業や、冬水田んぼ、ピオトープなどが増加して生物の多様性が少しずつ復活しつつあるかに感じている。その成果としてか以前は渡りの途中立ち寄っただけのマガン、コハクチョウが連続して越冬するようになった。さらに旅鳥ではかつて珍鳥だったセイタカシギ等のシギ類がふえ、サ



六方田んぼ探鳥会。早春の六方田んぼにはまだ冬鳥がみられる。



来日山探鳥会。渡ってきたばかりのオオルリ、キビタキ、コマドリがみられる。

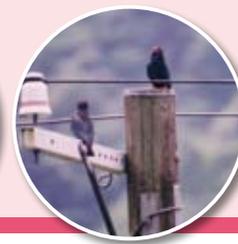
ギ類とともに水辺の鳥の種類、数ともに多くみられるようになったのは嬉しい。ただ現在コウノトリは放鳥されたものと、自然繁殖した幼鳥とで約30羽が円山川下流域の空を飛んでいるが、大多数がコウノトリの郷公園の給餌に頼って生活している。野生復帰にとって食べ物最大の問題であることは間違いない。

6月には扇ノ山で早朝探鳥会を続けている。ここには北近畿でも有数のブナの原生林があり、かつては北アルプス等高山帯で繁殖するとされていたコルリ、マミジロ、ルリビタキ、クロジ、アカハラ等が繁殖期に確認されている。又これらの鳥は現在但馬の標高1000m前後の山々でも繁殖期に声を聞くことが出来る。一方早朝、谷からわき出すよ様に聞こえた鳴声は少なくなり、コノハズク、ブッポウソウ、ヨタカ等の声は聞けなくなりました。

■連絡先

代表者 早川貞夫
〒668-0013 兵庫県豊岡市中陰522-5

TEL : 0796-23-7812
FAX : 0796-23-7812



コウノトリ。自然界で普通に見られるようになり嬉しい(左)
アオバズク。夜、声が聞こえるようになると季節が感じられる(中)
ブッポウソウは年々、見られる機会が少なくなっている(右)

8月は“ツバメのねぐら入りをみる会”をおこなっている。ねぐらとは、ツバメ達が初夏から秋にかけて南へと去るまでの間、每晚集団でアシ原にとまって眠る所であって、円山川下流域のどこかへ出来、2~4万羽と推定されるツバメが集まり乱舞をみせてくれる。ところでねぐらは円山川下流南北約20kmの間のどこへできるか。年により日により変わるので開催の日に関係なく集まるのか推定するのに苦労する。

又集まるツバメの総数は年々少なくなったように感じるが正確には判らない。

但馬地域は広くて、現在日本の自然環境の諸問題をすべてかかえている。私たちは鳥好き、自然愛好家を増やすことが自然と調和する生活を重視する社会をつくり出すために、もっとも大切なことであり目指すところと考えている。



バードウィーク探鳥会。各地で開催。一般参加者が来られます。



菅原一泊探鳥会。夜明け前から探鳥開始。扇ノ山まで登る。



久美浜湾探鳥会。海ガモ等、カモ類の他、冬鳥が多くみられる。

■主な活動地名

但馬地方一帯

私たちは、観光と自然が共存できる地域を目指しています。

一般社団法人 ハチ北高原自然協会

ハチ北高原は、兵庫県の北西部の香美町にあり、氷ノ山後山那岐山国定公園に指定されています。標高1221mの鉢伏山の北側に位置し、関西でも有数のスノーパークとして知られています。ハチ北高原自然協会は、これまでさまざまなスノーイベントを開催し、お客様に親しまれてきました。近年は特に夏山でのイベントに力を入れています。

関西でも屈指の豪雪地帯であるハチ北高原では、関西ではめずらしい植生を見ることができます。県指定天然記念物のザセンソウ群落、県内最大で郷土記念物でもあるハルニレの大木などがあります。また、大沼・小沼（大池・先大池）からなる2つの高層湿原周辺には、県内でもここにしか生息しないゴレツミズゴケなどがあります。さらには、県内で見られる10種類のホタルがいるのはハチ北だけになっており、冷涼な気候が多様な生態系を作り出し、生物の多様性に富んだ地



県指定天然記念物ザセンソウ

域となっています。

ホタルイベントを3年前より取り組んでおり、何百というホタルが飛び交う姿をみることもできます。

22年度より、ハチ北のエコツアーを開催し、さまざまな植物が織り成す独自の世界をみなさんに楽しんでいただけるインタープリテーションを実施しています。

5月のニリンソウ、エンレイソウ、サンカヨウなどのスプリングエフェメラル、レンゲツツジが満開になる5月下旬、サワフタギ、ガマズミ、ヤブデマリなどの樹木の花開く6月上旬、ヒメボタルが飛び交う7月下旬、キノコが顔を出す10月下旬、ナナカマドなどの実や、紅葉が美しい11月、そして、ヤマドリゼンマイ、モウセンゴケなどが美しい湿地などなど、四季を通じて、さまざまな表情を変えていくハチ北はいつ来ても目が離せま



大沼の植物を皆で勉強

■連絡先

代表者 理事長 西村勝正
〒667-1344 兵庫県美方郡香美町村岡区大笹15-1

TEL : 0796-96-0732
FAX : 0796-96-0341

■ホームページ <http://www.hachikita.jp>

■E-Mail : info@hachikita.jp



大沼のニリンソウ群生地〈左〉
ニリンソウ〈右〉

せん。ぜひ一度ハチ北の四季を感じにいらしてください。



コマユミ。大沼を明るく縁取ります。



サワフタギ。秋の日差しを一身にうけてとめて・・・

大沼のニリンソウ群生地

スキー場の雪も溶け、森の木々が芽を出し始める頃、木漏れ日の下にひっそりと、でもにぎやかにニリンソウが咲き始めます。緑と白のコントラストが美しく、妖精や天使などがあらわれそうなおとぎの国にいるような空間になります。少し奥に歩いていくとサンカヨウの群生地もあり、あたりにさわやかな香りを放ちます。春の中でももっとも美しい風景の一つです。



ニリンソウ

■主な活動地名

ハチ北高原 大沼湿原

森の遊びは森の学び 自然のすばらしさを子どもたちへ

一般社団法人 青空 net

青空 net は自然教育活動を通じて得ることのできる感動や、自己の内的な発達の機会を提供するとともに、自然教育の調査研究、普及啓発等を行うために設立された一般社団法人です。事業は大きく分けて次の3つの柱があります。

- (1)自然教育のための自然体験活動普及事業の推進
- (2)自然教育指導者の養成及び研修事業の開催
- (3)自然教育のための野生動物の保護保全活動及び調査研究事業

大人向けの指導者養成事業では、ツリーイング（ロープを使った木登り）という新しい自然体験活動を近畿・中国地域に普及しており、現在までに300名近い指導者を養成してきました。ツリーイングは最近あちこちの社会教育施設でも定番のプログラムになりつつあり、非常に人気が出てきたプログラムといえます。樹上という普段目にする事のない不思議な世界を活動エリアに入れることができ、樹上の自然観察や樹木観察など、研究者の方が技術を取り入れていただくことも増え



青空自然学校と参加した子どもたち



樹上10mで1夜をすごすツリートップステイ

てきました。

また、プロジェクト・ワイルドやネイチャーゲームを中心とした環境教育系のプログラム普及と指導者養成にも力を入れており、自然を知識ではなく、感性から学び、その得た感動から、心で伝えることのできる指導者を養成していきたいと考えています。

次に子どもたち向けの普及事業ですが、自然学校への指導者派遣を中心に、ツリーイングやプロジェクト・ワイルド、ネイチャーゲーム等のプログラム指導を行っています。プログラム実施のための調査や準備等も受託し、次世代を担う子どもたちが、少しでも自然とふれ合う機会が増えることに喜びを感じています。特に「森の遊びは森の学び」をテーマに、自然の中で楽しく五感を使って遊ぶことが、子どもたちが自ら興味を湧き起こし、学ぶ力につながると考えていますので、体験第一を考えながら、事業を進めています。

生物多様性に関するこんな仕事をしています。

セミナー・講習会の開催／共同調査・研究

活動に関する相談・アドバイス

また、主催事業で年1回開催する4泊5日の青空自然学校は、廃村にある築100年の農家を使いながら、森から流れる本来の時間に合わせたのかなプログラムを展開しています。この自然学校は、朝起きたら、まず湧水まで移動して顔を洗うことから始まります。のんびり歩きながら、周囲から聞こえてくる鳥や虫の声に耳をすませ、見つけた生き物を観察しながらの散歩です。生活の中に自然の営みが溶け込んだ生活を5日も過ごす、子どもたちの笑顔がやさしくなり、目が輝いてきます。特にツリーイングの技術を使って樹上で夜を過ごすツリートップステイの夜は格別です。10メートルもの高さに設置したハンモックの中で寝るのですが、自分たちが森の一部になったような感覚を覚え、森の風、森の匂い、森のささやきにつつまれながら寝ることができます。木々の中を通り過ぎる星の輝きの美しさは、ぜひみなさんにも体験してもらいたいひと時です。さらにツリートップステイの醍醐味は朝を迎える瞬間で



遊びながら動物たちの生態を学ぶプロジェクト・ワイルド



自然学校で行う川の生き物調査

す。白々と明けていく森の朝、ある瞬間を境に、「ざわー」と風が吹き、一斉に鳥たちがさえずり始める瞬間が、自分たちが寝ている真横で感じることが出来ます。森との一体感を強く感じるこの瞬間は、子どもたちは起きていても無言で感じていてくれるようです。これからも森を感じ、森の生き物を感じることで、様々な自然体験活動の機会を作っていきたいと思っています。

また、最近では、森の営みをしっかり伝えるために、野生動物の生態調査も進めています。指標生物の調査や、ツキノワグマの電波探査等を通して、森の中の出来事を、森の外からでなく、「森の中」から社会へ向けて発信できる団体として活動を続けていければと考えています。



樹上の世界を楽しむツリーイング

■連絡先

代表者 田中 誉人

〒667-1511 兵庫県美方郡香美町小代区神水545-1

■ホームページ <http://ao-zora.net>

■E-Mail : info@ao-zora.net

TEL : 090-2046-5888

FAX : 0796-97-3275

■交通アクセス

施設周辺はツキノワグマの住む豊かな森

尼崎市立美方高原自然の家「とちのき村」

尼崎市立美方高原自然の家「愛称:とちのき村」は兵庫県美方郡香美町にある尼崎市が平成8年に設立した自然の家で、年間4万人近い方が利用されます。

この自然の家は宿泊定員が宿舎280人、キャンプ場200人とたいへん大きな施設ですが、氷ノ山山系の端に位置し、周囲はブナやミズナラ等の豊かな森に囲まれており、森の中で活動することが非常に多く、自然の中で遊ぶ機会の少ない最近の子どもたちにとっては最高の自然体験の場と言えます。また、現在は尼崎市より財団法人日本アウトワード・パウンド協会が指定管理を受託し、冒険教育や自然教育などを柱とした独自の運営を行っています。

この美方高原自然の家では、現在周囲の豊かな森を生かした、野生動物の保護や教育プロジェクトを進めています。その中で特に力を入れているのが次の3点です。



ワイルドレンジャー養成講座の開催

- 1) 周囲に住むツキノワグマをはじめとした野生動物の正しい知識を知る。
- 2) 今森の中で起こっている自然の変化に気づく。
- 3) 命の循環を意識し、食育活動に力を入れる。

1) 周囲に住むツキノワグマをはじめとした野生動物の正しい知識を知る。

当施設では兵庫県森林動物研究センター、兵庫県立人と自然の博物館と連携し、剥製展示やツキノワグマを中心とした情報コーナーを設置し、グマの1年間の生活をわかりやすく解説しながら、毛皮にさわったりクイズをしながら動物の正しい知識を得てもらっています。施設に入所した時に子どもたちに話すオリエンテーションの説明の中でも、山に住む動物たちに対し、「かわいい」「こわい」といったイメージ的な感覚や問題ではなく、「どういう生態をしているのか」という正しい知識の中、私たちが「どういう対処をしなければ



美方高原自然に家全景

■連絡先

代表者 木谷尚史

〒667-1532 兵庫県美方郡香美町小代区新屋1432-35

■ホームページ [http:// www.obs-mikata.org](http://www.obs-mikata.org)

■E-Mail : info@obs-mikata.org

生物多様性に関するこんな仕事をしています。

展示学習／セミナー・講習会の開催／活動に関する相談・アドバイス／共同調査・研究

ばならないのか」を話すようにしています。

また、ワイルドレンジャー養成講座等を定期的に開催し、「人に伝える」ことの重要性和その方法を学んでいただいています。実際に動物の痕跡等を見ていただけるのも、施設周辺の豊かな森があるからこそ、知識に頼らない生きた講座となっています。

2) 今森の中で起こっている自然の変化に気づく。

施設周辺では現在ニホンジカが異常に増えてきました。植生の変化や住んでいる動物の種類の変化、痕跡等を子どもたちに実際に見てもらい、地元の農業や林業を営むお年寄り話なども交えて、動物と人間のかかわりについて考えるプログラムを実施しています。お年寄りの話などから考えると、動物と人間とのつきあいが、この20年間で急激に変化していったのがよくわかります。野生



野生動物の痕跡を
実際に見てもらえ
ます

子どもたちへ動物とのつながりを伝えて
います



■交通アクセス

<http://www.obs-mikata.org/koutuu.htm>

動物が今のように農林業の「敵」でなかった頃の話は、現代の生活を考えさせるとともに、降雪量も急激に少なくなっていった話など、生活と地球環境が密接につながっていることも意識させてくれています。

3) 命の循環を意識し、食育活動に力を入れる。

施設周辺では現在、増えすぎたシカの捕獲が始まっています。しかし、捕獲されるほとんどが処分されている現状を、子どもたちにもしっかり伝えていきます。私たちの命は、動植物の命をいただくことでしか、つないでいくことができないということを話し、人間の都合で「命の無駄」をおこすべきでないことを考えていただく一環として、食堂でのシカ肉料理の提供を始めました。カレーや炊き込みご飯としてシカ肉料理が出ますが、子どもたちにもとても好評で、施設職員の話す野生動物の話にも、とても興味を持って聞いてくれています。現在施設の食堂はできるだけ産地地消となるようなメニュー作りを心掛けています。

以上の取り組みを通して、私たち財)日本アウトワード・パウンド協会尼崎市立美方高原自然の家のスタッフ一同は、野生動物と人との関わりを常に考えた施設運営を心掛け、但馬北部のビジターセンター的な機能ももてるよう、今後も頑張っていきたいと思っています。

(文責: 副所長 田中誉人)



野生動物や産地地消の食育活動に力を入れています

コウノトリを野生に帰しています

兵庫県立コウノトリの郷公園

兵庫県立コウノトリの郷公園は、一度は絶滅した特別天然記念物のコウノトリを、人の生活との共存を図りながら野生に復帰させるために1999年に開設された、世界でも稀な施設です。絶滅した生き物の野生復帰は誰もが喜ばしく思うことではありませんが、それを実現させるためには、地域の人々の協力はもちろん、科学に裏打ちされた資料の蓄積、実行に移すための中期・長期にわたる計画が必要です。コウノトリの郷公園では、野生に戻すためのコウノトリの増殖と遺伝的管理、コウノトリの行動の研究、野生復帰に向けての具体的な計画、人と鳥とが共存できるような環境の創出へ向けての研究と提案、環境教育・学習やその啓発普及活動など、多岐にわたる活動を行ってきました。

1989年に飼育下での繁殖に成功して以来コウノトリは順調に羽数を増やし、2005年には待望の放鳥が行われ半世紀ぶりに自然界にコウノトリ



湿地で行う生き物調査

リが舞う姿を見ることができました。その後も2009年に至るまで毎年放鳥が行われ、放鳥個体同士の野外での繁殖による幼鳥を含めて、豊岡盆地にコウノトリが舞う風景がよみがえりました。一部の放鳥された個体には発信器がとりつけられ、日々行動経路が記録されています。また、採餌や利用環境など日常の細かな行動は目視によって記録され、地元の多くのボランティアやNPOの方々との協力をいただきながら、極めて興味深い資料が得られています。

コウノトリは羽根を広げると2mを超える大型の鳥で、ドジョウ、カエル、バッタといった、田んぼや湿地、河川などで採れる小動物を餌にしています。コウノトリが野外で暮らしていくには、それを支える豊かな生態系が存在しなくてはなりません。まさに、地域の生物多様性を象徴する存



円山川に創出した浅場に集まり休息するコウノトリ

■連絡先

〒668-0814 兵庫県豊岡市祥雲寺字二ヶ谷128

TEL : 0796-23-5666

FAX : 0796-23-6538

■ホームページ <http://www.stork.u-hyogo.ac.jp>

■E-Mail : kounotori@stork.u-hyogo.ac.jp

生物多様性に関するこんな仕事をしています。

質問対応／セミナー・講習会の開催／活動に関する相談・アドバイス／共同調査・研究／コウノトリの保護・増殖・野生復帰

在と言えるでしょう。豊岡盆地では減農薬・無農薬の循環型農業が広がりを見せるなど自然再生が進められ、日常生活の中に戻ってきたコウノトリは地域経済や伝統・文化を含む地域の再生を考えるきっかけも与えてくれています。放鳥した個体や野外で繁殖した個体の中には、豊岡盆地を離れ、愛媛県や福井県など、各地へ移動するものも出てきているので、この地域に留まらない広域な連携を強化し、人もコウノトリも安心して暮らせる環境を各地に広げていきたいと考えています。



放鳥個体と野生個体の間にヒナが誕生



講座やサイエンスカフェも実施



■交通アクセス

JR山陰線豊岡駅から約4.5km

豊岡駅から全但バスコウノトリの郷公園行き
終点下車